



Title	貯水槽の清掃について
Author(s)	着本, 秀一
Citation	makoto. 1977, 19, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86182
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

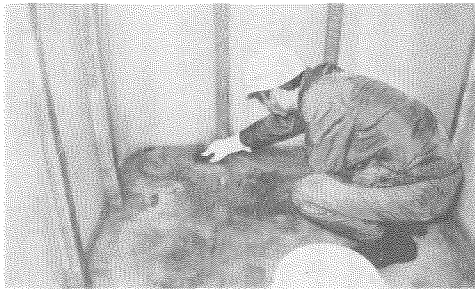
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

貯水槽の清掃について

水道栓の蛇口をひねる一水がある。この水は水道であるから常にきれいであり衛生的にも安全である、大方の人は信じています。事実、市町村等の水道当局は、水道法第一条にかかげられている「清浄にして豊富低廉な水の供給をはかり、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与する。」ことを目的として日夜懸命の努力を重ねられ、かつて全国的に流行した水系による伝染病の予防撲滅にも絶大な貢献をしております。

ところが、市町村等の水道法による水道の管理概念が高層ビル等の建物にあつては受水槽の入口までとなつており、またビル内の給排水施設が建築基準法の不備などあつてその構造設備基準が明確でなかつた等もあり、ビル内の給水について衛生上種々の問題が発生しました。しかし、昭和45年「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」(以下「ビル管法」という。)(が制定され、ビルの給排水施設がチェックされるに従つて、様々な問題が明らかとな



り、特に上水の貯水槽が不潔であり、また設備構造上の不備のため(汚水槽等よりの汚染のため)伝染病発生等の事故が散発したことも明らかとなりました。このようなことから昭和49年4月ビル管法の施行規則の一部改正が行われ、給水せん水の残留塩素の検査や水質検査の定期的実施の外に、貯水槽の掃除を年一回行うことが特定建築物の維持管理権原者に義務づけられ、さらに権原者はこの貯水槽の掃除を、厚生大臣の指定する者に行

わせることができるよう規定されました。

当協会も「伝染病予防並びに公衆衛生の業務を通じて文化の発展に寄与する。」の設立目的に則り、本年2月8日厚生省環第46号をもつて貯水槽清掃業者としてその指定を受け、爾来今日までいくつかの貯水槽清掃を実施させて戴きましたが、その感想の一端を述べてみたいと思います。

従前から貯水槽の管理は、給水の品質管理よりもむしろ給水に支障を起さないため、付随機器の機能保持が優先し、特に床下に構築された貯水槽は、設置条件から一般に点検がしにくかつたこともありましたが、日本人の習性として停滞することなく移動している水は常にきれいであるという感覚からつい掃除もあまり顧みられなかつたのではないかと思われまふ。

たまたま揚水ポンプのフードバルブやボールタップの故障でその修理か取替等のため内部に入るついでに掃除をするというのが実情であり、また受水槽、

高置水槽が鋼板製の場合は、内部腐蝕による損傷防止のための塗装実施のため掃除が行われていたようですが、これも水槽の寿命延長が目的であつたように思われます。

従つて貯水槽内部の汚れは想像以上のものでありますので、今後とも管理基準に示されている定期清掃の完全履行を望むものであります。

さらに貯水槽の構築構造上の問題として、一般に受水槽はビルの最下部にあり、受水槽の床上が設備機械室となつているため、ポンプサクションパイプが床を貫通したり、点検用のマンホールが設けられているので、設備機械の整備や床掃除による汚水、ポンプのグランドからの漏水また機械から流出する油等が流入しないよう細心の注意が必要で

す。なお、地下受水槽は一槽のものが多く、ビルの性格によつては清掃実施に時間的に相当の制約を受けることがあり、また地下受水槽にはドレン装置が設けられないので完全排水に長時間を要し、さらに底部に集水ビットがないために掃除後の汚水排出にも相当の時間を要する等の問題があります。

以上感想の一端を述べましたが、水道は常時休止することなく安全な水を供給するという意味からも単に水質に関する結果的取締りだけでなく、給水施設特に受水槽の設置及び構造に關して、今後規制の強化を希望するものであります。

なお、過日、本国会で水道法の一部が改正され、従前から諸法の規制対象外となつていた市町村等の水道水のみを水源とする一定の給水施設も「簡易専用水道」として規制されるやに聞いておりますが、衛生上まことに時宜を得たものとなることである次第であります。

第一事業部阪南出張所長 著 本秀一

編集後記

暑中お伺い申し上げます。

★表紙の写真は、着本阪南出張所長が、岬町淡輪府立青少年海洋センター地先で撮影したものです。

★梅雨あけと共に暑さも一段と厳しさを増しますが、皆様ご健康に留意され、一層のご活躍をお祈りいたします。

(児玉)